

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	国文学演習ⅠA						
担当教員	田中 まき						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	『古今和歌集』の研究						
授業の概要	平安時代（905年）に撰進された我が国最初の勅撰和歌集である『古今和歌集』について演習する。『古今和歌集』の成立や構造の問題、収載された和歌の歌語や表現の問題などを取り上げる。また、それぞれの歌がどのように解釈され、注釈、伝授されてきたか、その享受の相を考察する。						
到達目標	和歌文学における『古今和歌集』の位置や意義を理解し、説明できる 『古今和歌集』の和歌の歌語や表現性について理解し、説明できる。						
授業計画	第1回 勅撰和歌集についての講義 第2回 『古今和歌集』の成立についての講義 第3回 和歌の修辞技巧についての講義 第4回 『古今和歌集』の構成についての講義（部立・配列） 第5回 『古今和歌集』春の演習 第6回 『古今和歌集』夏の演習 第7回 『古今和歌集』秋の演習 第8回 『古今和歌集』冬の演習 第9回 『古今和歌集』賀の演習 第10回 『古今和歌集』離別の演習 第11回 『古今和歌集』の本文異同についての演習 第12回 『古今和歌集』の伝本についての講義 第13回 『古今和歌集』の古写本についての講義 第14回 まとめと試験 第15回 『古今和歌集』についてのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	それぞれの歌の解釈ができるよう学習しておくこと。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	演習内容（60％）、試験（40％）						
教科書	『古今和歌集』片桐洋一訳・注、笠間書院 ISBN 978-4-305-70417-7（4-305-70417-X）C392						
参考書	適宜指示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	国文学演習ⅠB						
担当教員	田中 まき						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	『古今和歌集』の研究						
授業の概要	我が国最初の勅撰和歌集である平安時代の『古今和歌集』について演習を行う。 具体的には、本学図書館所蔵の『古今和歌集かるた』を題材とし、まず、このかるたに取り上げられている絵札・字札が、どの歌を扱ったものかを解明し、その本文系統や絵の意味について探究する。 また、それぞれの歌の用語や修辞技巧、さらには、それぞれの歌に現れている王朝びとの発想や当時の人々の暮らしぶり、儀礼、行事についても考察する。						
到達目標	和歌文学における『古今和歌集』の位置や意義を理解し、説明できる 『古今和歌集』の和歌の歌語や表現性について理解し、説明できる。						
授業計画	第1回 『古今和歌集』の古注釈についての講義 第2回 『古今和歌集』の古注釈書①についての講義 第3回 『古今和歌集』の古注釈書②についての講義 第4回 『古今和歌集』の享受についての講義 第5回 『古今和歌集』羈旅の演習 第6回 『古今和歌集』物名の演習 第7回 『古今和歌集』恋一の演習 第8回 『古今和歌集』恋二の演習 第9回 『古今和歌集』恋三の演習 第10回 『古今和歌集』恋四の演習 第11回 『古今和歌集』恋五の演習 第12回 『古今和歌集』哀傷の演習 第13回 『古今和歌集』雑の演習 第14回 まとめと試験 第15回 『古今和歌集』についてのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	それぞれの歌の解釈ができるよう学習しておくこと。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	演習内容（60％）、試験（40％）						
教科書	『古今和歌集』片桐洋一訳・注（笠間書院） ISBN 978-4-305-70417-7（4-305-70417-X）C392						
参考書	授業中に提示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	国文学史演習A						
担当教員	三木 麻子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	和歌と歌論・歌学の歴史						
授業の概要	文学史の中での和歌の位置について考えてゆく。 各時代の勅撰集の成立と作風を考察し、歌風・歌論の変遷や私撰集（私家集）、和歌的催しとの関わりについて探求する。						
到達目標	古代から中世に至る歌風・歌論の変遷について理解し、その特徴を説明することができる。						
授業計画	第1回 和歌史による時代区分 第2回 歌集の撰集について 第3回 三代集について その成立と歌風 第4回 三代集時代の私家集・私撰集 第5回 貫之・公任の歌論と私撰集 第6回 歌合について 第7回 後拾遺和歌集 仮名序と『難後拾遺』 第8回 金葉和歌集・詞花和歌集 第9回 『俊賴髓脳』 第10回 千載和歌集と『古来風体抄』 第11回 新古今和歌集（1）仮名序と歌風 第12回 新古今和歌集（2）撰集資料について 第13回 藤原定家の歌学 第14回 十三代集の世界 第15回 歌学・歌論についてのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	取り上げる歌集の代表的な作品を読む。 また演習後には興味を引かれた作品についてさらに広く読み進めること。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	演習の発表内容80% 平常点 20%						
教科書	『日本古典文学史』初版、乾 安代他、双文社出版、ISBN978-4-88164-042-5						
参考書	随時、指示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	国文学史演習B						
担当教員	三木 麻子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	散文学史の展開						
授業の概要	散文学の史的展開について演習する。 物語などが生み出される歴史的背景や散文作品の成立について探究する。						
到達目標	散文学史を理解し、各時代の作品の特徴を説明することができる。						
授業計画	第1回 竹取物語 第2回 歌物語について 第3回 伊勢物語の成立 第4回 伊勢物語と歌集 第5回 宇津保物語 第6回 日記文学について 第7回 源氏物語について 第8回 源氏物語の中の物語・物語論 第9回 源氏物語と和歌 第10回 狭衣物語と和歌 第11回 女流日記の展開 第12回 無名草子 第13回 歴史物語 第14回 平家物語 第15回 物語と和歌の史的展開						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で扱った作品をできるだけ多く読み進めること。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	発表内容など演習の取り組み 80% 平常点 20%						
教科書	『日本古典文学史』初版、乾 安代他、双文社出版、ISBN978-4-88164-042-5						
参考書	随時、指示する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	国文学特殊講義ⅡA						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	浄瑠璃・歌舞伎の基礎研究 1						
授業の概要	浄瑠璃と歌舞伎の交流は近世演劇史の重要なテーマである、しかし二つの芸能は残された資料の性質が異なり、研究は難しい。そこで浄瑠璃でも歌舞伎でも演じられる作品を取り上げ、その研究の具体例を考察する。前期は浄瑠璃を読む。						
到達目標	歌舞伎・浄瑠璃の基礎や実証的な研究方法について説明することができる。						
授業計画	第1回 浄瑠璃概説 第2回 浄瑠璃の正本 第3回 『国性爺合戦』 1 明の滅亡 第4回 『国性爺合戦』 2 混血青年の渡唐 第5回 『国性爺合戦』 3 獅子城の悲劇 第6回 『仮名手本忠臣蔵』 1 事件の発端 第7回 『仮名手本忠臣蔵』 2 松の廊下 第8回 『仮名手本忠臣蔵』 3 切腹 第9回 『仮名手本忠臣蔵』 4 おかると勘平 第10回 『仮名手本忠臣蔵』 5 敵討 第11回 『妹背山婦人庭訓』 1 敵同士の恋仲 第12回 『妹背山婦人庭訓』 2 恋人の悲劇 第13回 『妹背山婦人庭訓』 3 もう一組の悲劇 第14回 浄瑠璃鑑賞 第15回 舞台の再現						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業を理解するために、指示する資料で近世演劇全般に関する知識を学ぶ必要がある。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	発表50% レポート50%						
教科書	プリントを配布						
参考書							

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	国文学特殊講義ⅡB						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	浄瑠璃・歌舞伎の基礎研究 2						
授業の概要	浄瑠璃と歌舞伎の交流は近世演劇史の重要なテーマである、しかしいくつの芸能は残された資料の性質が異なり、研究は難しい。そこで浄瑠璃でも歌舞伎でも演じられる作品を取り上げ、その研究の具体例を考察する。後期は歌舞伎を読む						
到達目標	歌舞伎・浄瑠璃の基礎や実証的な研究方法について説明することができる。						
授業計画	第1回 歌舞伎概説 第2回 歌舞伎の台帳 第3回 『国性爺合戦』 1 明の滅亡 第4回 『国性爺合戦』 2 混血青年の渡唐 第5回 『国性爺合戦』 3 獅子城の悲劇 第6回 『仮名手本忠臣蔵』 1 事件の発端 第7回 『仮名手本忠臣蔵』 2 松の廊下 第8回 『仮名手本忠臣蔵』 3 切腹 第9回 『仮名手本忠臣蔵』 4 おかると勘平 第10回 『仮名手本忠臣蔵』 5 敵討 第11回 『妹背山婦人庭訓』 1 敵同士の恋仲 第12回 『妹背山婦人庭訓』 2 恋人の悲劇 第13回 『妹背山婦人庭訓』 3 もう一組の悲劇 第14回 歌舞伎鑑賞 第15回 舞台の再現						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業を理解するために、指示する資料で近世演劇全般に関する知識を学ぶ必要がある。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	発表50% レポート50%						
教科書	プリントを配布						
参考書							

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本学特殊講義A						
担当教員	青木 稔弥						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	阪神の風景						
授業の概要	風景の見え方は人それぞれである。生まれ育った環境に大いに影響されるもので、それを文化そのものだと評したとしても過言ではないであろう。歌枕もしくは俳枕を視座として、所謂、日本的風景について考察を加える。						
到達目標	日本的風景について考えることを通じて、相対的な物の見方を獲得する。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 「俳枕」とは 第3回 神戸の風景 第4回 神戸東部 第5回 神戸西部 第6回 兵庫県の風景 第7回 兵庫県北部 第8回 兵庫県南部 第9回 大阪の風景 第10回 大阪中央部 第11回 大阪北部 第12回 大阪南部 第13回 浪華の風景 第14回 神戸と大阪 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	地理的感覚を学ぶことが肝要						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価70%、レポート30%						
教科書	プリントを使用						
参考書	授業中に指示する						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本学特殊講義B						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	京阪奈の風景						
授業の概要	風景の見え方は人それぞれである。生まれ育った環境に大いに影響されるもので、それを文化そのものだと評したとしても過言ではないであろう。前期に引き続き、歌枕もしくは俳枕を視座として、所謂、日本的風景について考察を加える。						
到達目標	日本的風景について考えることを通じて、相対的な物の見方を獲得する。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 淀川下り 第3回 京都の風景 第4回 洛北 第5回 洛中 第6回 洛南 第7回 京都県北部 第8回 京都県南部 第9回 奈良の風景 第10回 奈良中央部 第11回 奈良北部 第12回 奈良南部 第13回 平城京と平安京 第14回 日本的風景 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	地理的感覚を、より深く学ぶことが肝要。						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価70%、レポート30%						
教科書	プリントを使用						
参考書	授業中に指示						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学演習ⅡA						
担当教員	田附 敏尚						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語の疑問文の研究						
授業の概要	この講義では、日本語に関する研究のうち、特に疑問文に関する研究を取り扱う。各回論文を用意するので、担当者はそれらの文献を要約し発表する。他の受講生は事前に文献を読んでおき、疑問点や問題点を考えておく。						
到達目標	・先行研究に対して批判的な目を持ち、問題点を見つけることができるようになる。 ・疑問文に関わる事象に対する理解を深め、独自の視点で考察ができるようになる。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 疑問文研究の概観 第3回 日本語の疑問文の研究（1） 肯否疑問文と疑問詞疑問文 第4回 日本語の疑問文の研究（2） 質問と疑い 第5回 日本語の疑問文の研究（3） 疑問文とイントネーション 第6回 日本語の疑問文の研究（4） 疑問文とモダリティ 第7回 日本語の疑問文の研究（5） 納得・非難・反語 第8回 日本語の疑問文の研究（6） 意志・勧誘・行為要求 第9回 日本語の疑問文の研究（7） 否定疑問文 第10回 日本語の疑問文の研究（8） 確認要求文 第11回 日本語の疑問文の研究（9） 「だ」と「か」 第12回 日本語の疑問文の研究（10） 疑問文と「のだ」 第13回 日本語の疑問文の研究（11） 疑問文の通時的研究 第14回 日本語の疑問文の研究（12） 方言における疑問文 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	発表を担当する場合は必ずレジュメ（配布資料）を作成すること。また、発表を担当しない場合でも必ず文献を読んでおくこと。						
授業方法	第1回、第2回、第15回は講義形式。その後は演習形式で行う。						
評価基準と評価方法	発表内容40%、演習への参加度30%、レポート30%						
教科書	必要に応じて、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学演習ⅡB						
担当教員	田附 敏尚						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語の方言終助詞の研究						
授業の概要	この講義では、日本語に関する研究のうち、特に方言終助詞の分野に関する研究を取り扱う。各回論文を用意するので、担当者はそれらの文献を要約し発表する。他の受講生は事前に文献を読んでおき、疑問点や問題点を考えておく。						
到達目標	・ 先行研究に対して批判的な目を持ち、問題点を見つけることができるようになる。 ・ 方言終助詞研究に対する理解を深め、独自の視点で考察ができるようになる。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 (方言) 終助詞研究の概観 第3回 日本語の方言終助詞の研究 (1) 青森 第4回 日本語の方言終助詞の研究 (2) 宮城 第5回 日本語の方言終助詞の研究 (3) 福島 第6回 日本語の方言終助詞の研究 (4) 長野 第7回 日本語の方言終助詞の研究 (5) 富山 第8回 日本語の方言終助詞の研究 (6) 京都 第9回 日本語の方言終助詞の研究 (7) 大阪 第10回 日本語の方言終助詞の研究 (8) 和歌山 第11回 日本語の方言終助詞の研究 (9) 山口 第12回 日本語の方言終助詞の研究 (10) 福岡 第13回 日本語の方言終助詞の研究 (11) 大分 第14回 日本語の方言終助詞の研究 (12) 沖縄 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	発表を担当する場合は必ずレジュメ(配布資料)を作成すること。また、発表を担当しない場合でも必ず文献を読んでおくこと。						
授業方法	第1回、第2回、第15回は講義形式。その後は演習形式で行う。						
評価基準と評価方法	発表内容40%、演習への参加度30%、レポート30%						
教科書	必要に応じて、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学特殊講義ⅠA						
担当教員	黒木 邦彦						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語の音韻および五十音圖の歴史。						
授業の概要	下記到達目標を達成する爲の講義とそれに基づく論文講讀。						
到達目標	言語變化の要因を知る。 音韻變化の一般性を知る。 古典に關する文獻學的知識を身に附ける。 時代ないし地域に據る日本語の差異を知る。 日本語音韻史を知る。 五十音圖の歴史を知る。 學説が必ずしも定まってゐないことを知る。 修士論文の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要の説明 02: ア・ヤ・ワ行子音の歴史 03: ハ・バ・パ行子音の歴史 04: サ・ザ行子音の歴史 05: カ・ガ行子音の歴史 06: 「ん」「っ」の歴史 07: 【受講生を中心とする論文講讀 (1): 母音關聯】 08: 【受講生を中心とする論文講讀 (2): 子音關聯】 09: 假名の配列 10: いろは歌 11: 中古の五十音圖 12: 中世までの五十音圖 13: 近世以降の五十音圖 14: 【受講生を中心とする論文講讀 (3): いろは歌關聯】 15: 【受講生を中心とする論文講讀 (4): 五十音圖關聯】						
授業外における学習（準備学習の内容）	講讀用資料作成。 論文讀解。 教員が manaba にアップロードする豫習資料は事前に讀んでおくこと。 授業は豫習（＝事前讀書）を前提に進める。						
授業方法	講義および演習。						
評価基準と評価方法	學術發表: 40點 質疑應答: 20點 學期末報告書: 40點 特段の理由無く3回以上欠席した者は、その最終成績を0點とする。						
教科書	教員が manaba にアップロードする資料。						
参考書	大木 一夫 『ガイドブック日本語史』、ひつじ書房 沖森 卓也 (編著)、陳 力衛・肥爪 周二・山本 真吾 (2010) 『日本語史概説』、朝倉書店 小松 茂美 (1968) 『かな—その成立と変遷—』 (岩波新書・青版679)、岩波書店 樺島 忠夫 (1979) 『日本の文字—表記体系を考える—』 (岩波新書・黄版75)、岩波書店 馬淵 和夫 (1993) 『五十音図の話』、大修館書店						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語学特殊講義ⅠB						
担当教員	黒木 邦彦						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	金光明最勝王經古點の言語學的研究。						
授業の概要	下記到達目標を達成する爲の講義とそれに基づく論文講讀。						
到達目標	訓點語の特徴を知る。 訓點資料に関する文獻學的知識を身に附ける。 日本語音韻史を知る。 學説が必ずしも定まっておらないことを知る。 修士論文の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要の明 02: 訓點とは何か 03: 訓點語と古典語の違い: 音韻および語彙 04: 訓點語と古典語の違い: 文法 05: 金光明最勝王經の解説 06: 受講生を中心とする講讀 (1): 卷第一 07: 受講生を中心とする講讀 (2): 卷第二 08: 受講生を中心とする講讀 (3): 卷第三 09: 受講生を中心とする講讀 (4): 卷第四 10: ここまでの問題點の反省 11: 受講生を中心とする講讀 (5): 卷第五 12: 受講生を中心とする講讀 (6): 卷第六 13: 受講生を中心とする講讀 (7): 卷第七 14: 受講生を中心とする講讀 (8): 卷第八 15: 總括						
授業外における学習（準備学習の内容）	講讀用資料作成。 論文讀解。						
授業方法	講義および演習。						
評価基準と評価方法	學術發表: 40點 質疑應答: 20點 學期末報告書: 40點 特段の理由無く3回以上欠席した者は、その最終成績を0點とする。						
教科書	圖書館に所蔵されてゐる次の書籍を使ふので、購入の必要は無い。 春日 政治 (1942)『西大寺本金光明最勝王經古點の国語学的研究』、斯道文庫〔復刻版: 勉誠社、1969年〕 総本山西大寺 (編) (2013)『国宝 西大寺本 金光明最勝王經 天平宝字六年百濟豐虫願經』、勉誠社						
参考書	大坪 併治 (1981)『平安時代における訓點語の文法』、風間書房 築島 裕 (1986)『平安時代訓點本論考』、汲古書院 山田 孝雄 (1935)『漢文の訓讀によりて傳へられたう語法』、寶文館						

科目区分	【修士】国語国文学専攻科目						
科目名	日本語教育特殊講義B						
担当教員	池谷 知子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育および関連境域における諸問題						
授業の概要	日本語教育の実践につなげ、活用していくことを念頭に、日本語および日本語教育をめぐる様々な問題を考える。基本的な知識を確認・補充しつつ、自ら問題を発見し、主体的に考える力を養うことを重視したい。論文の輪読と受講生による研究発表を中心に進める。各自のディスカッションへの積極的な参加が求められる。実践を積むため学外の日本語教育機関に見学に行ったり、実習を行うことがある。						
到達目標	・客観的に母語である「日本語」を観察することができる。 ・日本語について疑問に思ったことについて、それを研究し分析することができる。 ・日本語を母語としない者に日本語を教えることができる。						
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 SLA研究とは1 第3回 SLA研究とは2 第二言語習得とは？ 第4回 SLA研究とは3 近年のSLA研究 第5回 先行文献をいかに読むか1 文献の集め方 第6回 先行文献をいかに読むか2 文献の読み方 第7回 先行文献をいかに読むか3 研究テーマの設定 第8回 リサーチプランの作成1 リサーチプランの構成 第9回 リサーチプランの作成2 研究の背景 第10回 リサーチプランの作成3 研究の目的・検討課題・仮説 第11回 心理学的SLAデータ1 反応時間データ 第12回 心理学的SLAデータ2 音声分析データ 第13回 心理学的SLAデータ3 コーパスデータ 第14回 学外での授業見学（実習） 第15回 まとめと振り返り						
授業外における学習（準備学習の内容）	輪読する論文を熟読し、内容を把握するとともに問題点をあげておく。 発表を担当するときは、配付資料を用意しておく。						
授業方法	講義＋演習（発表を含む）						
評価基準と評価方法	・授業への積極性、発表、レポートなどの総合評価とする。 発表：授業参加・積極性：60% 課題あるいはレポート：40%						
教科書	門田修平『SLA研究入門 第二言語の処理・習得のすすめ方』くろしお出版 ISBN978-4-87424-490-6（¥1800）						
参考書	授業中に紹介する						